

生涯学習センターを拠点とする自主学習グループの調査

平成29年 3 月

名古屋市教育委員会生涯学習部生涯学習課

はじめに

名古屋市内全 16 区に設置されている生涯学習センター（以下、センター）は、社会教育センターを前身とした施設です。社会教育センターは、昭和 50 年に千種区の開館に始まり、昭和 60 年に中村・西の開館をもって 16 区すべてに設置され、平成 9 年 4 月に生涯学習センターと名称変更をしました。センターでは、全市的な課題を取り扱った講座や「趣味」「実技」「スポーツ」を取り扱った講座などを実施し、広く社会教育の啓発・振興を図ってきました。また、自主学習グループを育成する取り組みが積極的に進められ、市民の自主的・主体的な学習を促してきました。

センターでは、開館当初から生涯学習まつりを実施し、自主学習グループの成果発表の場としてきました。また、自主学習グループ開設講座の支援を行い、成果還元や会員増加を図る場としてきました。

平成 16 年度からは、センターの主催講座の分野・領域を見直し、「教養」「コミュニティ」「文化・生活」「スポーツ・レクリエーション」から、「現代的課題」「なごや学・まちづくり」「親学・青少年育成」「区の独自枠(平成 20 年度で廃止)」へと変更し、行政課題に特化した学習機会を提供するようになりました。

平成 23 年度より、なごやか市民教室が実施されるようになり、ボランティア講師による趣味・実技的な内容の講座が行われ、この講座をきっかけとした自主学習グループが年間 30 グループ程度発足しています。

このようにセンターの自主学習グループに関する取り組みは、その時代の情勢を見据えて取り組まれており、今後も様々な事業の展開が求められると考えられます。本調査では、センターを拠点とする自主学習グループについて設立年、活動実態、会員数、指導者の有無等の項目で調査し、グループの実態把握をします。また、現在の自主学習グループに関する事業や他都市の情報提供に関する取り組みをまとめ、今後各施設において事業展開をする際の参考となる基礎資料とすることを目的とします。

本調査が、今後のセンターにおける自主学習グループに関する事業展開を考える際の参考資料として、ご活用いただければ幸いです。

平成 29 年 3 月

名古屋市教育委員会生涯学習部生涯学習課

もくじ

はじめに

I	自主学習グループの実態調査について	
1	自主学習グループについて	1
2	調査対象グループ	1
II	自主学習グループのプロフィール	
1	活動分野	2
2	発足年	4
3	活動状況	5
4	会員	7
5	入会条件	8
6	入会金	8
7	月会費	9
8	指導者	10
III	自主学習グループに関する本市の事業について	
1	自主学習グループ開設講座	11
2	生涯学習センターまつり	12
3	なごやか市民教室	14
IV	自主学習グループに関する情報提供について	
1	センターによる情報提供	15
2	Webナビなごやによる情報提供	15
3	学習相談	18
4	他都市のWeb等によるグループの情報提供	18
V	今後の自主学習グループに関する事業展開について	
1	名古屋市教育振興基本計画から	19
2	市民意識調査から	19
3	グループによる学習の意義について	20
4	具体的な事業展開について	21

おわりに

I 自主学習グループの実態調査について

1 自主学習グループについて

本調査では、自主学習グループ（以下、グループ）とは、各センターを主な活動場所とし、自主的に趣味、実技、スポーツ、学習等を共通の目的に向かって行うグループを指す。個人でなくグループで継続して活動することによって、チームスポーツなど個人ではできない活動ができたり、会員が相互に高め合ったりすることができる。

センターでは、各センターを活動場所としているグループにグループ登録を促している。登録をすることにより、センターロビー等でのポスターの掲示や、センターのロッカー、レターケースの使用など活動の支援を受けられるようになる。

また、センターは、グループの登録一覧表を作成し、学習情報提供を図っている。従来各センターが独自に行ってきたが、平成 17 年度よりシステムを一本化し、登録書式を統一することとなった。希望するグループは、名古屋市教育委員会が運営するインターネットサイト「生涯学習 Web ナビなごや」（以下、Web ナビなごや）に情報を掲載し、新規会員を募集することができる。

各センターに登録しているグループは 1413（平成 28 年 7 月現在）グループである。

2 調査対象グループ

本調査では、Web ナビなごやに情報提供をしている 1,070 グループを調査対象とする。これは、全体の 76%にあたる。

調査対象とするグループの区別は以下のようである。

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	
75	100	37	90	56	68	51	57	
熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
53	55	59	75	83	73	57	81	1070

Ⅱ 自主学习グループのプロフィール

1 活動分野

グループを登録する際、活動内容に応じて「教育」「スポーツ・レクリエーション」「芸術・文化」「人文・社会科学」「地域社会・国際関係」「自然科学」「産業・技術」「家庭生活・趣味」「健康・福祉」「遊び・体験」「その他」に分類している。
その分類別の割合は、以下のようである。

分類	グループ数	割合
教育	13	1.2%
スポーツ・レクリエーション	266	24.9%
芸術・文化	522	48.8%
人文・社会科学	28	2.6%
地域社会・国際関係	46	4.3%
自然科学	4	0.4%
産業・技術	17	1.6%
家庭生活・趣味	86	8.0%
健康・福祉	78	7.3%
遊び・体験	5	0.5%
その他	5	0.5%
合計	1070	100%

「芸術・文化」が約半数を占め、次いで「スポーツ・レクリエーション」が約4分の1となっている。以下、「家庭生活・趣味」、「健康・福祉」と続いている。

最も、多くの割合を占める「芸術・文化」の分野別の割合は、以下のようである。

活動分野	グループ数	割合
映画・演劇	6	1.1%
音楽・芸能・舞踊	270	51.7%
芸術・工芸	0	0.0%
芸術・文化一般	11	2.1%
書道	27	5.2%
茶道・華道	18	3.4%
美術・工芸	150	28.7%
文学・文芸	40	7.7%
合計	522	100%

合唱、楽器演奏、詩吟などを行う「音楽・芸能・舞踊」の割合が最も多く、次いで、絵画、陶芸などを行う「美術・工芸」の割合が多い。

多くの割合を占める「スポーツ・レクリエーション」の分野別の割合は、以下のようである。

活動分野	グループ数	割合
スポーツ・レク一般	19	7.1%
レク・体力づくり	76	28.6%
格技	8	3.0%
球技	136	51.1%
体操	10	3.8%
登山・野外活動	17	6.4%
合 計	266	100%

センターには体育室があり、利用率が大変高く、平成 27 年度の利用率は 95.7%である。

そのため、室内で活動するグループが多く、最も多い割合を占める「球技」の活動をみても、卓球、バドミントン、バレーボール等、室内で行う球技が多い。

2 発足年

各グループの発足年は、以下のようである。

発足年	グループ数	割合
～1965年	14	1.3%
1966年～1970年	17	1.6%
1971年～1975年	21	1.9%
1976年～1980年	45	4.2%
1981年～1985年	109	10.2%
1986年～1990年	152	14.2%
1991年～1995年	120	11.2%
1996年～2000年	143	13.3%
2001年～2005年	142	13.3%
2006年～2010年	96	9.0%
2011年～	129	12.1%
未記入・不明等	82	7.7%
合計	1070	100%

発足してから30年以上活動しているグループが約30%、20年以上活動しているグループが約50%になり、センターで活動するグループが長期間にわたって活動していることが分かる。

平成16年度にセンターの主催講座の分野・領域を見直し、「教養」「コミュニティ」「文化・生活」「スポーツ・レクリエーション」から、「現代的課題」「なごや学・まちづくり」「親学・青少年育成」「区の独自枠(平成20年度で廃止)」へと変更し、行政課題に特化した学習機会を提供するようになった。

現在登録しているグループについて、平成16年からの5年間と平成15年までの5年間の発足数を

平成11年～15年に発足	147グループ
平成16年～20年に発足	107グループ

比較すると、表のように大きな差がみられる。新規グループの発足が減ったことの原因とは必ずしも言えないものの、数値として減少傾向がみられた。

3 活動状況

(1) 活動曜日

各グループの活動曜日は、以下のようである。

曜日	グループ数	割合	備考
月	147	13.7%	第4月曜日は休館日
火	167	15.6%	第2火曜日は半数(8館)が休館日
水	185	17.3%	第2水曜日は半数(8館)が休館日
木	206	19.3%	
金	162	15.1%	
土	209	19.5%	
日	114	10.7%	開館は午前・午後のみ
不定期	97	9.1%	
未記入等	30	2.8%	
合計	1317		

※重複回答を含む

開館が午前・午後のみの日曜日や全館に休館日が設定されている月曜日がやや少ないが、活動曜日に極端な差は見られない。

(2) 活動回数

各グループの1か月の平均活動回数は、以下のようである。

回数	グループ数	割合
1回未満	8	0.7%
1回	190	17.8%
2回	320	29.9%
3回	173	16.2%
4回	225	21.0%
5回	37	3.5%
6回	16	1.5%
7回	10	0.9%
8回	26	2.4%
9回以上	25	2.3%
未記入等	40	3.8%
合計	1070	100%

隔週の場合は月2回、毎週の場合は月4回となり、隔週または毎週活動しているグループが多い。次いで月1回が多い。月3回は、月の最終週を実施しなかったり、第5週があるときに行ったりといった形で活動をしている。

(3) 時間帯

各グループの活動時間帯は、以下のようなものである。

時間帯	グループ数	割合
午前	490	45.8%
午後	470	43.9%
夜間	213	19.9%
未記入・不定期等	45	4.2%
合計	1213	

※重複回答を含む

午前、午後を活動時間とするグループは、夜間を活動時間とするグループの2倍以上である。日曜日は夜間開館しないことを含めても、午前・午後を活動時間とするグループが多い。

4 会員

各グループの会員数は、以下のようである。

会員数	グループ数	割合
1人～5人	77	7.2%
6人～10人	306	28.6%
11人～15人	231	21.6%
16人～20人	151	14.1%
21人～25人	67	6.3%
26人～30人	62	5.8%
31人～35人	17	1.6%
36人～40人	19	1.8%
41人～45人	11	1.0%
46人～50人	19	1.8%
51人以上	54	5.0%
未記入等	56	5.2%
合計	1070	100%

グループ内で男性・女性が多いグループ数は以下のようである。

	グループ数	割合
男性が多いグループ	189	17.7%
女性が多いグループ	739	69.0%
同数	63	5.9%
未記入等	79	7.4%
合計	1070	100%

また、未記入等を除くグループの男性・女性の人数は以下のようである。

	人数	割合
男性	7359人	33.8%
女性	14428人	66.2%
合計	21787人	100%

約3割のグループが10人以下で、半数以上のグループが15人以下であることから、多くのグループが少人数で活動していることが分かる。

また、女性会員が多いグループは、男性会員が多いグループの約4倍あり、会員数で見ても、約2倍である。

5 入会条件

各グループへの入会条件の有無は、以下のようなものである。

	グループ数	割合
あり	234	21.9%
なし	836	78.1%
合計	1070	100%

入会条件を設けていないグループが約 80%である。

入会条件としては、「女性のみ」、「男性のみ」といった性別に関するものが最も多く、次いで、「〇歳以上」といった年齢を条件としている。

他には、「子育て中の母親」等、家庭環境を条件としているグループもある。

また、活動への定期的な参加や、グループでの役割分担への協力など入会後の活動について、入会前の意思確認のための条件として挙げているグループもある。

〇〇経験者、△△ができる人といった技能に関する内容を条件にするグループは、10 グループ以下である。

6 入会金

各グループの入会金の有無は、以下のようなものである。

	グループ数	割合
なし	714	66.7%
1 円～500 円	32	3.0%
501 円～1000 円	149	13.9%
1001 円～1500 円	20	1.9%
1501 円～2000 円	57	5.3%
2001 円～2500 円	2	0.2%
2501 円～3000 円	33	3.1%
3001 円以上	20	1.9%
未記入等	43	4.0%
合計	1070	100%

入会金をありとしているグループが約 30%、なしが約 70%である。

ありとしているグループで最も多いのは、1000 円である。

7 月会費

各グループの月会費は、以下のようである。

	グループ数	割合
なし	60	5.6%
1円～500円	171	16.0%
501円～1000円	182	17.0%
1001円～1500円	97	9.1%
1501円～2000円	157	14.6%
2001円～2500円	80	7.5%
2501円～3000円	121	11.3%
3001円以上	158	14.8%
未記入等	44	4.1%
合計	1070	100%

各グループの活動回数は、グループによって異なる。月会費を活動回数で割った1回あたりの会費は、以下のようである。

	グループ数	割合
なし	60	5.6%
1円～500円	405	37.9%
501円～1000円	296	27.7%
1001円～1500円	147	13.7%
1501円～2000円	62	5.8%
2001円～2500円	24	2.2%
2501円～3000円	12	1.1%
3001円以上	7	0.7%
未記入等	57	5.3%
合計	1070	100%

※活動回数が未記入または不定期のグループは算出できないため、未記入等とした。

1回あたりの会費は1000円以下のグループが70%以上である。反対に、芸術、料理等のグループは、材料費がかかることと、美術室・料理室は他の部屋に比べ会場使用料が高いため、会費も高くなる傾向がある。

会費の扱いは、グループごとに定めており、定期的な会費を無料とし参加する際に材料代等を出席者が負担するというグループもある。

8 指導者

指導者の有無については、以下のようである。

	グループ数	割合
あり	730	68.2%
なし	310	29.0%
未記入等	30	2.8%
合計	1070	100%

指導者に依頼をしているグループの割合は、約 70%である。特に、「芸術・文化」では 82.6%、「家庭生活・趣味」では 76.7%となっており、指導者を依頼しているグループの割合が高い。反対に、「人文・社会科学」では 28.6%、「健康・福祉」では 39.7%と低い割合になっている。

Ⅲ 自主学習グループに関する本市の事業について

1 自主学習グループ開設講座

(1) 概要

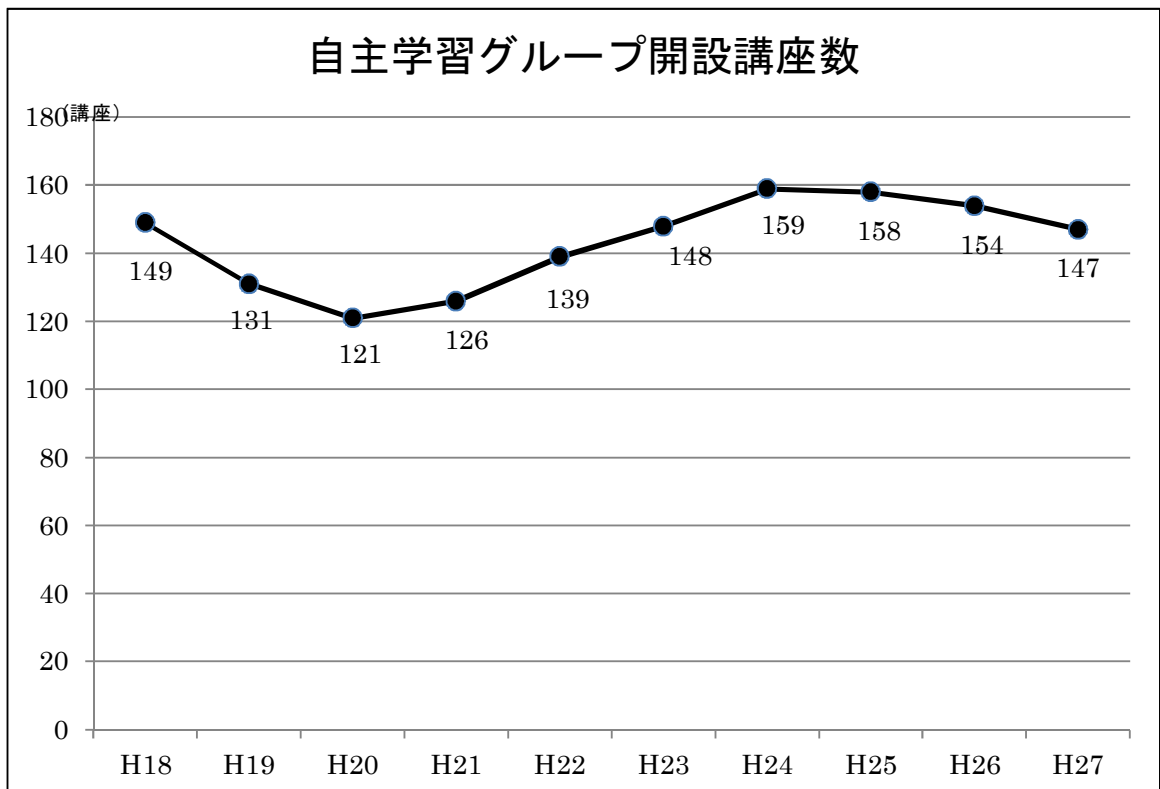
センターでは、その前身である社会教育センターの頃から、会員増加などのグループの活性化や市民への学習成果還元を目的に自主学習グループ開設講座（以下、自主講座）が実施されてきた。

「名古屋新世紀計画 2010」第 2 次実施計画（平成 15 年）の中で、自主講座の開設を支援することが盛り込まれたこともあり、各センターでは支援に力を入れてきた。学習内容は、趣味・実技的な学習が大半だが、近年では、ボランティアにかかわるものも少しずつ増えてきている。

平成 27 年度に「名古屋市生涯学習センターにおける自主学習グループ開設講座の支援及び実施に関する要綱」が施行され、これまでに行ってきた、会場の優先確保、講座案内等での広報、講座の内容相談といった支援が明確にされるとともに、受講者のプライバシー保護の観点強化された。講座の開設数や開設できるグループの条件などの詳細については、各センターの実態に応じて取り決めがされている。

(2) 実績

最近 10 年のセンターにおける自主講座の合計数は、以下のようである。



平成 27 年度は、各センターで 5～14 講座実施され、16 センターでは計 147 講座が実施された。年度によって増減があるものの、講座数は維持されている。

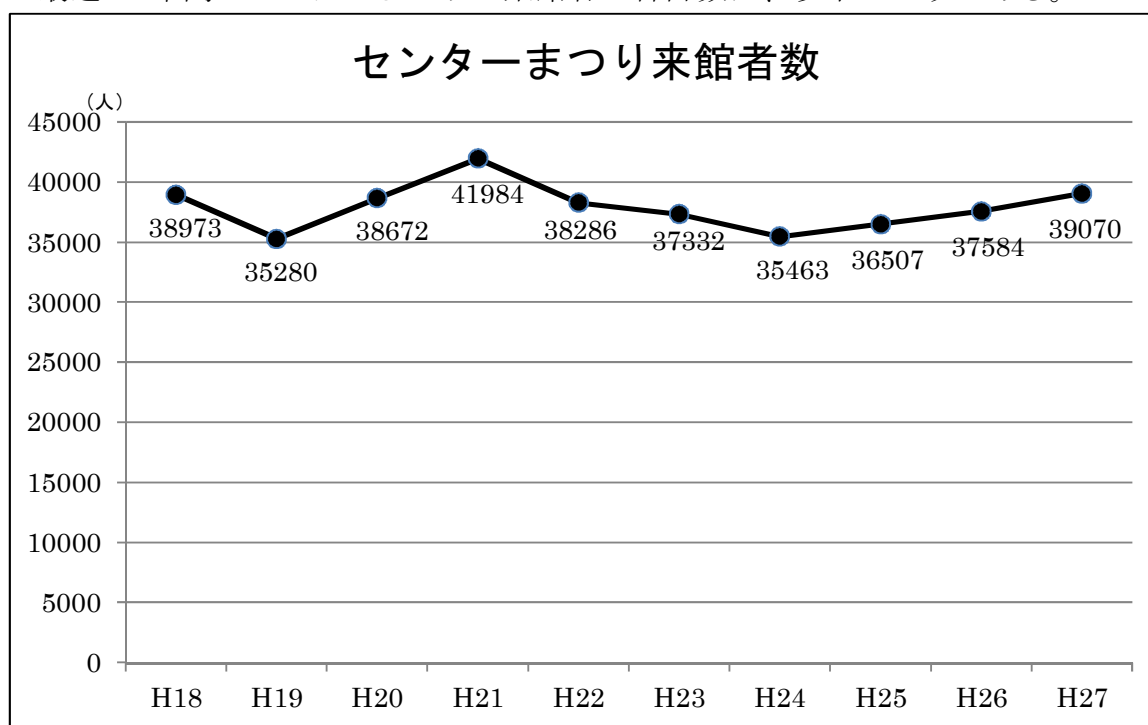
2 生涯学習センターまつり

(1) 概要

社会教育センター開館の初期から主に10月～12月の土・日曜日に実施され、昭和50年に開館した千種生涯学習センターでは、平成27年度で第40回を迎えた。センターを拠点に活動しているグループによる作品展示、ステージ発表等が行われ、日頃の学びの成果を発表する場として、センター利用者に定着している。グループによっては、生涯学習まつりが1年間で最も大きな成果発表の場となっている。発表にとどまらず、訪れた人が参加できる体験教室を開催し、教えるという形で学習成果の還元を図るグループもある。なごやか市民教室で結成されたグループやご当地グルメ講座で結成されたグループなど、新たな参加グループも見られるが、参加グループの総数は年々減少傾向にある。

(2) 実績

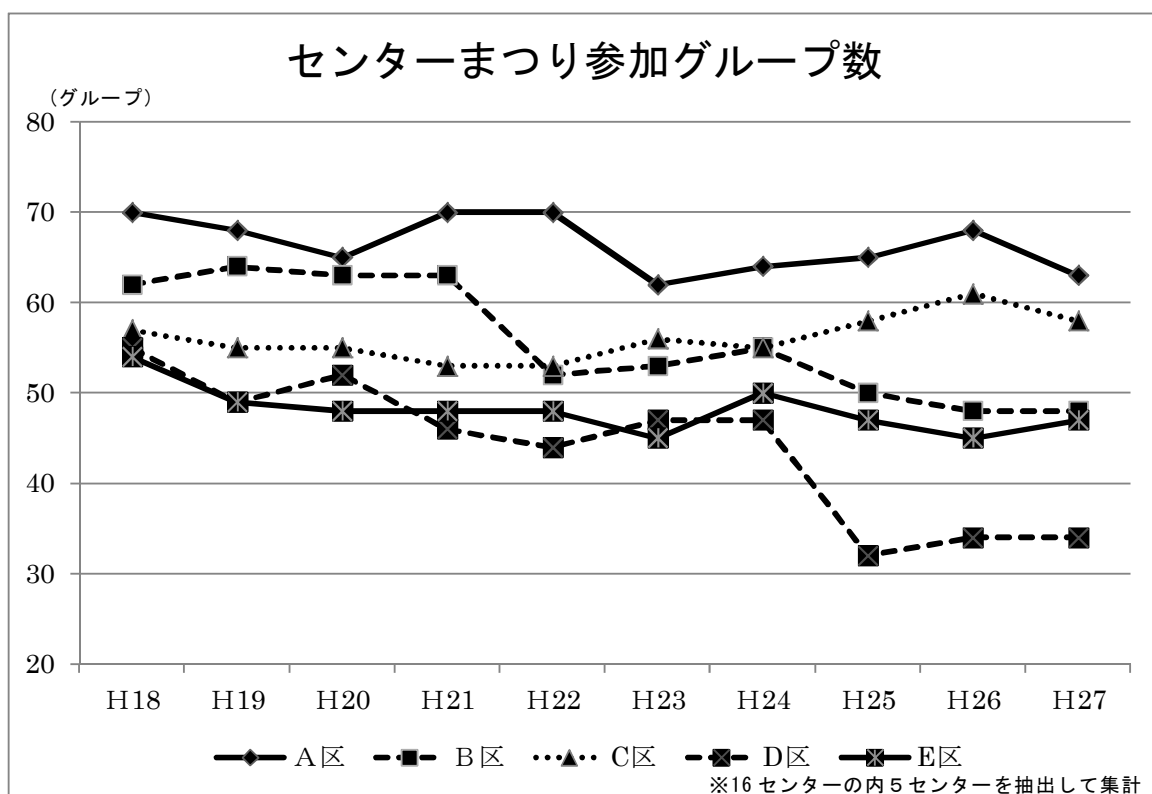
最近10年間のセンターまつりの来館者の合計数は、以下のようである。



※平成25年度瑞穂生涯学習センターは、暴風警報発令による中止のため、15センターの合計

センターまつりの来館者を増やすために、近隣の学校・園のステージ発表の場を設けたり、作品展示をしたりするセンターもある。また、センター主催の講演会や事業を実施するセンターもある。来館者は年によって変動があるが、40,000人弱の辺りで推移している。

センターまつりはグループ単位で、作品展示やステージ発表を行う。センターまつりに参加したグループ数は、以下のようなものである。



来館者数に対し、参加グループ数に減少傾向が見られるが、C区ではわずかではあるが増加傾向である。

今回の調査対象の1070グループのうち活動10年以内のグループは、225グループで約20%である。増加傾向の見られるC区では、10年以内のグループの割合が10%と少なく、減少傾向の激しいD区は24%と平均を上回っている。このことから、これまで参加していたグループが参加しなくなったことにより減少傾向が見られ、新規のグループがセンターまつりに参加しない傾向にあることが伺える。

3 なごやか市民教室

(1) 概要

平成23年度、千種・西・熱田・天白の4センターにおいて、教えたいと願う市民が、もっている知識や技能を生かしてボランティア講師となり、学びたい市民が受講する「なごやか市民教室」が試行実施された。本事業は、NPO法人生涯学習ネットワーク中部（以下、ネットワーク中部）と共催して実施している。

受講料収入から経費を確保し、受益者負担で運営を行っている。そのため、主催講座で扱わない趣味・実技的な内容の学習を取り上げることができ、生涯学習のきっかけづくりの場の充実につながっている。

現在、各センターで5分野5講座、計80講座の実施をめざしている。平成27年度は、「料理・生活」「美術・文芸」「音楽・園芸」「軽運動・健康」「語学」の5分野の講師に131件の応募があり、75講座で受講生の募集が行われ、48講座が開講した。

本事業では、講座終了後に講座受講者によるグループ化の支援をネットワーク中部とともに行っている。本事業での講座の回数は3～5回としているため、講座内容としては、主に初心者を対象としたものとなっている。講座での経験をきっかけに、学習の継続を求める受講者は一定数おり、そうした受講者が集まり自主学習グループを結成し、学習を継続している。

(2) 実績

16センターで実施されるようになった平成24年度から平成27年度までの講座実績や講座終了後に結成されたグループ数は以下のようなものである。

	募集講座数	開講講座数	受講者数	自主学習グループ結成数
平成24年度	80	50	643	35
平成25年度	96	68	800	35
平成26年度	78	51	636	33
平成27年度	75	48	539	33

開講講座の60%～70%の講座で、講座終了後受講者によるグループが結成されている。

IV 自主学習グループに関する情報提供について

1 センターによる情報提供

各センターでは、そのセンターで活動するグループの一覧表を作成し、情報提供をしている。一覧表には、グループ名、活動内容、主な活動曜日等が記されており、詳細については、グループが提出する学習グループ情報に基づき、窓口や電話にて個別に情報提供している。

また、グループが作成したポスターを掲示したり、チラシを配架したりすることで、情報提供をしている。



自主学習グループ 紹介コーナー

2 Webナビなごやによる情報提供

Webナビなごやのトップページには、講座情報、施設情報、ボランティア講師情報、インターネットによる学習等を掲載している。情報提供の一つとして学習グループの情報提供を行っている。

グループ情報は、「学習グループ情報を検索 参加したい」をクリックすることで、検索画面に推移する。



Webナビなごや トップページ

検索画面では、下のように千種区・東区等の活動区別検索や、教育・スポーツ・レクリエーション等の分野別検索により、グループを絞り込むことができる。また、フリーワード検索を用いることで、区や分野が分からない場合でも、検索することができる。

- [トップページ](#)
- [生涯学習って？](#)
- [講座・事業情報](#)
- [空室情報](#)
- [施設情報](#)
- [教育サポーターネットワーク](#)
- [学習グループ情報](#)
- [生涯学習なごや情報](#)
- [なごやか市民教室](#)
- [インターネット講座](#)
- [インターネット申請](#)
- [生涯学習関連リンク](#)
- [学習相談](#)

学習グループ情報 【参加したい】

● [トップページ](#) > 学習グループ情報

学習グループ情報検索

名古屋市生涯学習センター、女性会館で活動し、会員募集をしている学習グループについて活動区や活動内容で検索するシステムです。

ただし、宮利活動・宗教活動等の目的では情報提供できません。また、連絡先等の情報提供にあたっては、利用目的を確認させていただきます。ご協力ください。
なお、提供された情報は、個人の判断と責任においてご利用ください。

●● **活動区別検索**

学習グループ情報を活動場所ごとに検索できます。

[千種区](#) / [東区](#) / [北区](#) / [西区](#) / [中村区](#) / [中区](#) / [昭和区](#) / [瑞穂区](#) / [熱田区](#) / [中川区](#) / [濠区](#) / [南区](#) / [守山区](#) / [緑区](#) / [名東区](#) / [玉白区](#) / [女性会館](#) /

●● **分類別検索**

● **教育**

[家庭教育](#) / [教育一般](#) / [高齢者教育](#) / [女性教育](#) / [青少年教育](#) / [乳幼児教育](#) / [歴史・地理](#) /

● **スポーツ・レクリエーション**

[スポーツ・レク一般](#) / [レク・体力づくり](#) / [格技](#) / [球技](#) / [体操](#) / [登山・野外活動](#) /

● **芸術・文化**

[映画・演劇](#) / [音楽・芸能・舞踊](#) / [芸術・工芸](#) / [芸術・文化一般](#) / [書道](#) / [茶道・華道](#) / [美術・工芸](#) / [文学・文芸](#) /

● **人文・社会科学**

[郷土史\(誌\)](#) / [社会問題・労働](#) / [心理学](#) / [人文・社会科学一般](#) / [哲学・思想・宗教](#) / [法律](#) / [民俗・習俗・文化財](#) / [歴史・地理](#) /

● **地域社会・国際関係**

[ボランティア](#) / [まちづくり・コミュニティ](#) / [語学](#) / [国際理解・協力](#) / [人権](#) / [男女共同参画](#) / [地域社会・国際関係一般](#) /

● **自然科学**

[医学・薬学](#) / [環境](#) / [自然・生物](#) / [自然科学一般](#) /

● **産業・技術**

[通信・コンピューター](#) / [土木・建築](#) / [農林・水産](#) /

● **家庭生活・趣味**

[ファッション・衣食住](#) / [園芸](#) / [家庭生活・趣味一般](#) / [手芸・編物](#) / [住まい](#) / [消費者問題](#) / [食生活・料理](#) /

● **健康・福祉**

[医療](#) / [健康・福祉一般](#) / [児童福祉・子育て](#) / [障害者福祉](#) /

● **遊び・体験**

[屋外遊び](#) / [室内遊び](#) / [体験活動](#) / [遊び・体験一般](#) /

● **その他**

[その他](#) /

●● **フリーワード検索**

活動内容で検索できます。検索の手がかりとなるキーワードを入力してください。

グループ情報 検索画面

検索結果は、下のように一覧表示され、一覧内の「詳細情報」をクリックすることで、グループの活動内容や活動の拠点としているセンターの連絡先が表示される。

Webナビなごやのグループ情報では、代表者の連絡先等は掲載せず、センターに問い合わせをすることとしている。

●● 千種区 検索結果一覧表示

検索結果一覧です。1ページに20件まで表示されます。

取り扱い施設では、該当のグループが実際に活動していることが多く、詳しい情報を提供することができます。入手したい情報が見つかりましたら、取扱施設へ電話するか来館の上、連絡方法等を確認してください。

●● 一致した件数:75件 [1ページ目を表示しています]

全情報表示 >

グループ名	分類名	活動分野	活動区分	活動区	詳細情報
●千種童謡コーラス	芸術・文化	音楽・芸能・舞踊	童謡コーラスの活動	千種区	詳細情報
●千種ギター同好会	芸術・文化	音楽・芸能・舞踊	ギターの演奏技術の向上	千種区	詳細情報
●禅画と水墨クラブ	芸術・文化	美術・工芸	禅画と水墨	千種区	詳細情報
●ハーモニーミニテニス(千種ミニテニス)	スポーツ・レクリエーション	球技	ミニテニス	千種区	詳細情報
●男の一つ星 調理研究会	家庭生活・趣味	食生活・料理	男性だけの料理教室	千種区	詳細情報
●年金者組合千種支部 うたごえ同好会	芸術・文化	音楽・芸能・舞踊	うたごえ喫茶	千種区	詳細情報
●ちくさクラブ	スポーツ・レクリエーション	球技	バドミントン	千種区	詳細情報
●打雅奴	芸術・文化	音楽・芸能・舞踊	和太鼓	千種区	詳細情報
●クレパスの会	芸術・文化	美術・工芸	オイルパステル画	千種区	詳細情報

検索結果一覧表示画面

Webナビなごやの学習グループ情報のサイトのページビューは、平成27年度で166,557ページである。

年度	24年度	25年度	26年度	27年度
ページ数	139,305	144,371	152,582	166,557

ページの閲覧数は、年々増加している。

3 学習相談

本市では、生涯学習に関する様々な相談や疑問について一緒に考える生涯学習アドバイザーがおり、その役割をネットワーク中部会員が担っている。イーブルなごや内に「学習相談カウンター」設置し、平日の10時から16時までの間、対面または電話にて対応をしている。また、生涯学習アドバイザーがセンターに出向いて学習相談を行う派遣相談を各センター年間8回ずつ実施している。

学習相談は、個人による「〇〇をしたいけど・・・」「こうした学習はどこで・・・」といった内容の相談が多い。相談者の居住区や活動地域を尋ね、その近くのセンター等の施設で活動しているグループがあれば、紹介をしている。グループからの相談に応じることもでき、他のグループと連携や成果発表・還元などについて相談に応じることもできる。

4 他都市のWeb等によるグループの情報提供

本市以外の政令指定都市においても、Webによるグループの情報提供が行われている。本市と同様に検索画面から活動分野や活動区で絞り込むシステムとなっている市が多い。

本市では、グループ情報の掲載は、グループ名、活動内容、活動の拠点とするセンターとしているが、市によっては、活動日、会費、代表者の連絡先等を掲載しているところもある。

また、特徴的なシステムとして、相模原市では、県の情報システムを使用することで、市と県の両方に登録したいグループの情報更新等の負担を軽減している。福岡市では、検索キーワードのランキングを掲載することで、需要の高いキーワードで調べることを容易にしている。

本市では、年に1回、各グループに登録内容の確認を依頼し、それを元に内容を定期更新している。また、グループからの依頼があった場合は、随時更新をしている。掲載情報を詳細にすることも考えられるが、そうすることにより更新の手続きをする機会が増え、グループに負担がかかることが考えられる。しかし、グループ情報を利用する市民にとっては、詳細情報が掲載される方が便利であるという面もある。必要とする情報量について、今後検討をしていく必要がある。

また、多くの他都市においても、対面・電話等による学習相談が行われている。本市のように、市民ボランティアがその役目を担っているところが多い。Webや広報誌等で情報を得ることができるが、自分に合った学習を探すためには、生涯学習事業に詳しい担当と話をしながら探していくことが近道であるので、このような学習相談は、今後も大きな役割を担っていくと考えられる。

V 今後の自主学習グループに関する事業展開について

1 名古屋市教育振興基本計画から

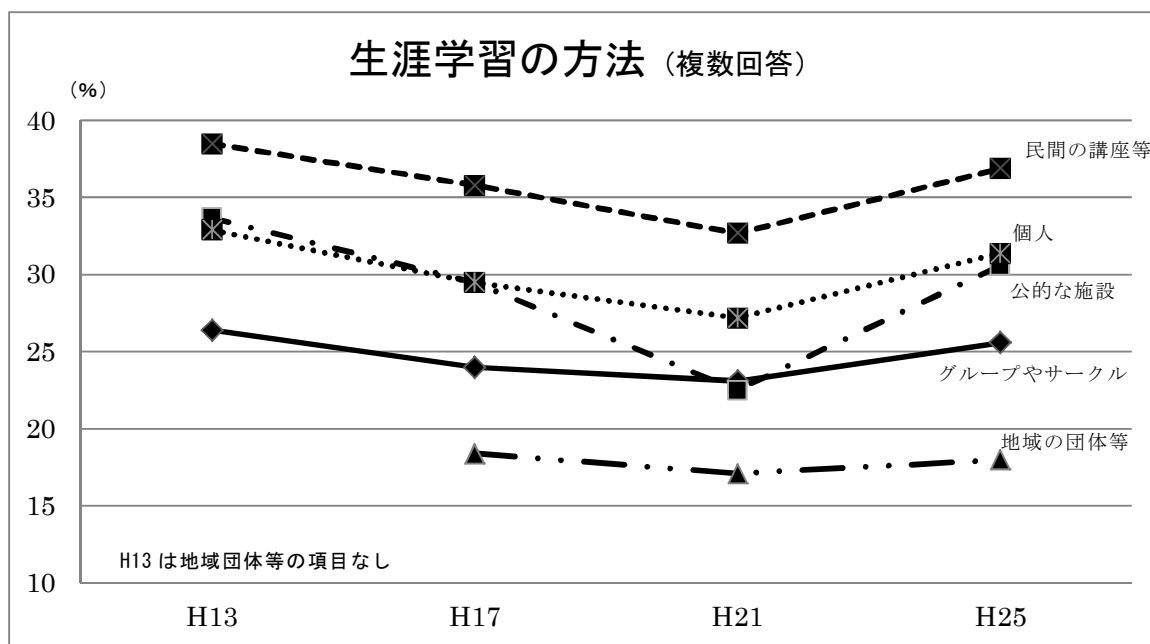
本市では、「なごやっ子の“学び”はいかにあるべきか」、「子どもたちの“学び”をどう担うのか」、「生涯を通じた“学び”へどう接続するか」といった大きなテーマのもと、教育の現場が直面している課題の解決を図るため、平成27年度から4年間を計画期間とした「名古屋市教育振興基本計画」を策定した。生涯学習については、基本的方向の中で、以下のように記載されている。

基本的方向V 生涯を通じた学びの支援	
市民が生涯を通じて学びを継続できるようにするとともに、その成果を生かし社会で活躍できるよう支援します。	
施策 17	生涯学習の機会と場の提供・ネットワークづくりを進め、学ぶ楽しさや意欲を高めます
施策 18	学びの成果を社会に生かすことができるよう、支援します
施策 19	名古屋の歴史や文化に根ざした魅力を大切にし、活用・発信します

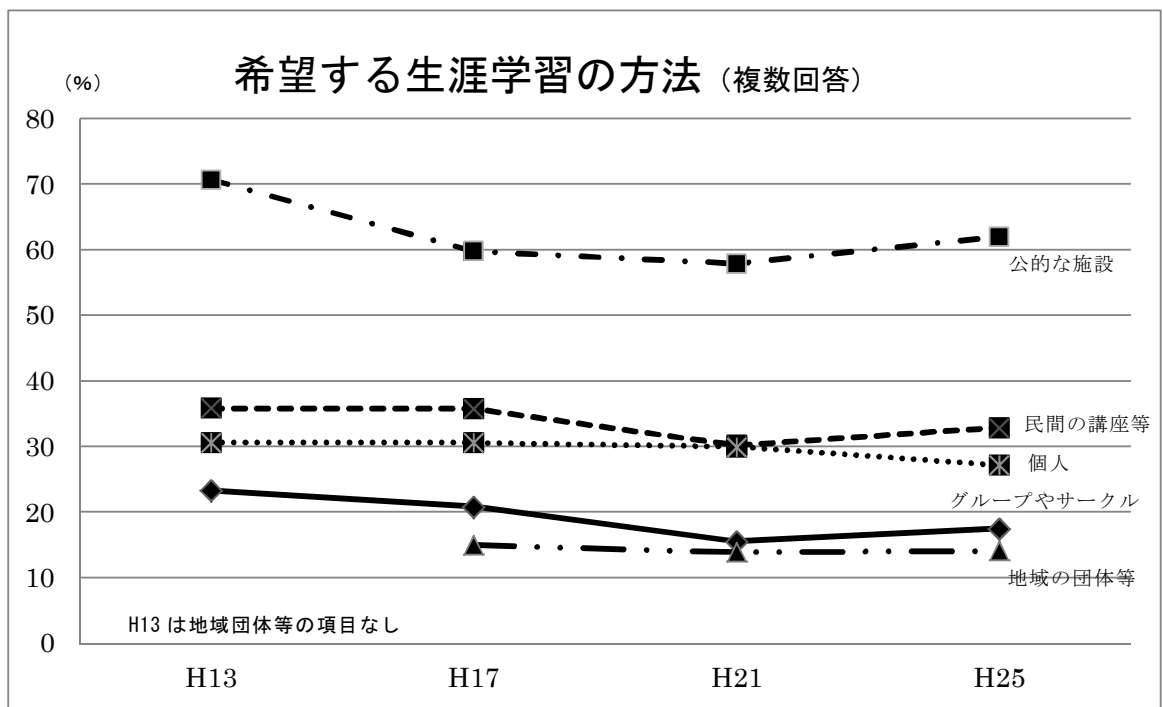
本計画の具体的な事業の中で、前項までに触れた「なごやか市民教室」「Webナビなごや」について記載されている。

2 市民意識調査から

本市が4年ごとに実施している市民意識調査において、最近1年間に生涯学習を行ったという市民に、「生涯学習を行ったときの方法」を尋ねたところ、以下のような結果となった。



また、生涯学習を行わなかった市民も含め、全員に「今後、生涯学習を行うとしたときに希望する方法」を尋ねたところ、次頁の結果となった。



調査結果から生涯学習の方法について、大きな変化が見られないことが明らかになった。生涯学習を行った市民の4分の1が「生涯学習の方法」として「グループやサークル」と回答しているのに対し、全員を対象とした「希望する生涯学習の方法」としては、6分の1に留まる。

これは、新たな学習を始める際、講座への参加や、個人での学習は、自身の意思で始めることができるのに対し、グループでの学習は、既存のグループに所属したり、活動をする仲間との合意形成が必要だったりするため、生涯学習を行っていない市民にとって、難しいと感じられていることが一因と考える。

3 グループによる学習の意義について

生涯学習に取り組む形は、人それぞれであり、グループによる学習は、その一つの形である。しかし、学習活動を続けていくにあたり、グループによる活動は、学習者に様々な利点がある。古市勝也氏（元九州共立大学教授）は、具体的に①～⑥のことを挙げている。

- ① 学習の仲間意識が生まれ、居場所が確保され、所属の欲求が満たされる（所属の場）
- ② 目的達成のための学習内容や方法（手順・手法）等の情報を交換しながら共有できる（情報交換の場）
- ③ 目的に向かって構成員相互に啓発・奨励しながら学習できる（啓発・奨励の場）
- ④ 構成員との相互作用によって学習の継続が促進される（継続促進の場）
- ⑤ 学習の成果を相互に承認することができる（相互承認の場）
- ⑥ 学習の成果を仲間とともに自己表現できる（自己実現の場）

このような学習者の利点を踏まえ、生涯を通じた学びの支援の一つとして、グループによる学習のための支援をしていくことが必要である。

引用：古市勝也（元九州共立大学教授）『生涯学習研究 e 事典』（日本生涯教育学会）

4 具体的な事業展開について

グループの活動の目的、実態は様々である。また、既存グループの活動の継続だけでなく、新たなグループが結成されていくことも大切である。そこで、グループに関する事業展開をグループの結成、グループの継続、グループの成果発表・還元の3段階で整理する。

(1) グループの結成

現在、センターの事業をきっかけに結成される形として、主催講座終了後に結成される形やなごやか市民教室の講座終了後に結成される形がある。本市の主催講座は、行政課題に特化した課題を扱っており、グループの活動として継続しやすい、芸術・文化やスポーツ・レクリエーション等の内容を扱っていないため、主催講座から自主的な学習を継続するグループは少なくなっている。

しかし、平成28年度より学習内容の幅を広げ、生涯学習のきっかけとなる講座・事業を主催講座・事業に位置付けた。ここでは、健康・文化・家庭生活等に関する内容を扱っており、これらの講座・事業からグループを結成し活動を継続していくことが期待できる。

また、なごやか市民教室は、グループ化を視野に入れた運営をしており、開講前に講師に対して、講座中の受講者へグループ化の働きかけを依頼したり、講座初日には、受講者にグループ化についての説明をしたりしている。最終回には、本市職員が講座会場に出向き、グループ化の支援をしている。活動内容、講師の指導内容、受講者の雰囲気は数回の講座の中で分かるため、グループ化をしやすい傾向がある。今後も、このような学びを継続する形でのグループ化の支援を続けていく必要がある。

また、センターを拠点とするグループ活動について周知されていない現状がある。利用者からの相談については、窓口で対応しているが、「グループ活動のすすめ」といった案内を用意し、グループの活動について活動内容と施設利用の両面から利点を紹介し、手軽にグループ活動について知ってもらう工夫も必要である。

(2) グループの継続

グループを継続させていくには、会員数の維持・増加が重要である。会員の達成感や充足感も継続のために必要な要素であるが、これについては次の項で触れる。

現在、新会員を増やしていくための広報として、センターでのちらしや掲示板、窓口での案内、Webナビなごやのグループ情報などがある。多くのグループは、事前見学を受け入れており、希望者が興味のあるグループの活動の様子を見学・体験に行き、入会するかどうかを判断することができるようにしている。

また、自主学習グループ開設講座は、センターが発行する講座案内等にも掲載され、広く参加を呼び掛ける講座である。一人で事前見学をするのを躊躇してしまうことも考えられるので、この講座に参加して、グループの活動の様子を知ることで、入会のきっかけとすることが期待できる。

今後は、グループの情報を全市的に発信していくことが必要である。現在、Web

ナビなごやで、グループ情報を検索することができるが、なかなか目に留まらない現状がある。そこで、紹介を希望するグループについて、トップページのお知らせから、直接グループ紹介のページに移るようにし、目に留まるような工夫をしていくことが考えられる。現在、Webナビなごやのトップページのアクセス数は、日平均400件強なので、トップページに目を引くグループ紹介が掲載されれば、成果は期待できると考える。

(3) グループの成果発表・還元

会員が達成感や充足感をもつことは、継続する際に重要なことであり、グループの成果発表・還元の機会を設定していくことが必要である。

現在は、センターまつり、自主学習グループ開設講座が主な場となっている。センターまつりでは、グループの活動内容に応じて作品展示、ステージ発表があり、展示や発表を見た方から、直接感想を聞くこともでき、達成感や充足感を感じられる機会となっている。自主学習グループ開設講座については、新会員募集という面だけではなく、学習したことを受講者に教える機会ということで、グループの会員にとっては大きな成果還元の機会である。

また、成果還元の機会として、教育サポーターネットワーク制度がある。教育サポーターネットワークとは、自分の学習成果や特技・能力などをボランティアとして生かしたいという市民の方々を募集・登録することにより、教育や生涯学習に関するボランティアの指導・支援を必要とする地域や学校などからの求めに応じて情報を提供する制度である。グループに対しては、Webナビなごやにグループ情報を提供する際に、同制度への登録を促しているが、現在の登録数は105グループと10%に満たない。指導・支援を必要とする団体の要望を聞いた上で、グループの実態に合ったマッチングをするので、グループの力量を超える指導・支援を求めることはないが、登録の割合が少ないのは、こうした不安を感じているグループが一定の割合でいることが考えられる。

今後は、グループの希望に応じて、センターの枠を超えて、広く成果発表・還元の間を提示していくことが必要である。前述の教育サポーターネットワークへの登録や地域や学校からの求めに応じた指導・支援ができるような体制を作るため、指導・支援をする側と求める側の双方に情報提供していくことが考えられる。また、センターまつりを最大の成果発表の間としているグループにとって、センターまつりの活性化は重要である。新規グループが参加しやすくなるよう、実行委員会への参加や役割分担が大きな負担とならないよう効率化を図ることが必要である。

おわりに

本調査では、センターを拠点とするグループについて実態を調査し、現在の自主学習グループに関する事業や他都市の情報提供に関する取り組みをまとめ、今後の事業展開について整理しました。

グループの実態は、それぞれ異なり、支援の在り方も異なります。多様な実態に対応できるように、豊富な情報を持ち、的確に提供していくことがセンターをはじめとする生涯学習機関に求められます。また、単なる情報提供にとどまらない対話による支援も、必要とされてきます。

本市初の生涯学習センターが設立されて40年が経ち、長期間活動してきたグループが会員数減により解散するなど、活動するグループにも変化が見られています。グループによる学習は学習者にとって様々な利点があります。グループ活動への支援について、これまでの事業や取り組みを大切にしつつ、時代に応じた新たな手立てが今後求められることになると考えられます。本調査は単年度にて実施しましたが、ある一定の期間を経て、その変容を分析することで、より時代に即した提案ができるものとも考えております。従って、本調査について、今後も、定期的にも実施していくことが必要であると考えます。

本調査が、現在のグループの実態把握と今後のセンターにおけるグループに関する事業展開を考える際の参考資料として、ご活用いただければ幸いです。

生涯学習センターを拠点とする自主学習グループの調査

発行年月 平成 29 年 3 月

発行 名古屋市教育委員会
生涯学習部生涯学習課

〒460-0015 名古屋市中区大井町 7-25
TEL (052) 321-1571
FAX (052) 321-1574